

	平成23年度横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会 及び横浜市都市美対策審議会表彰広報部会合同部会
議題	1 座長の決定について 2 第6回横浜・人・まち・デザイン賞について 3 その他
日時	平成24年1月26日(木) 午後2時から午後4時まで
開催場所	神奈川自治会館 301会議室
出席者(敬称略)	地域まちづくり推進委員会表彰部会委員：山路清貴(部会長)、佐谷和江、関根崇年、山家京子 都市美対策審議会表彰広報部会委員：金子修司(部会長)、鈴木智恵子、関和明、竹谷康生 事務局：恵美須望(地域まちづくり課長)、塚田洋一(都市デザイン室担当課長) 水口英彦(地域まちづくり課担当係長)、保坂研志(都市デザイン室担当係長)
欠席者(敬称略)	地域まちづくり推進委員会表彰部会委員：吉武美保子 都市美対策審議会表彰広報部会委員：佐々木葉 事務局：齋藤泉(都市整備局都市づくり部長)
開催形態	公開(傍聴者0名)
決定事項	議題1：座長に都市美対策審議会表彰広報部会の金子修司氏を選出した。 議題2：スケジュールや各部門の連携については事務局で今後調整を行う。また、認知度の向上を目指してウェブ上の表現や大学等への働きかけをより強めていくとともに、審査の視点や表彰対象の選び方については次回に向けて検討を行う。
議 事	<p>・委員の紹介 塚田課長より各委員の紹介あり</p> <p>議 事 1 座長の決定について</p> <p>○塚田課長 合同部会におきましては交互に持ち回りとしております。今回の座長は、都市美対策審議会表彰広報部会の金子部会長にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>○委員 異議なし</p> <p>○塚田課長 異議がないようなので、金子部会長に座長をお願いします。 では、金子部会長、以降の議事進行をお願いいたします。</p> <p>○金子部会長 それでは、ただいまご指名をいただきました金子でございます。以降、本日の議事進行をさせていただきます。2つの部会のすり合わせというイメージで、情報交換などをするということを目指していると考えております。十分な審議ができるようによろしくお願ひします。 それでは、まず初めに本日の配付資料の確認をしていただきたいと思いますので、事務局よりお願いします。</p> <p>配布資料について、事務局から説明を行った。</p> <p>・会議の公開</p> <p>○金子部会長 それでは、会議の公開・非公開についてのご説明をお願いします。</p> <p>○塚田課長 本日の審議事項に関しては、横浜市情報公開に基づく条例第7条の非公開にすべき事項に該当しないと考えておりますので、すべて公開したいと思います。</p> <p>○金子部会長 ありがとうございました。</p> <p>議 事 2 第6回横浜・人・まち・デザイン賞について 第6回横浜・人・まち・デザイン賞について、事務局から説明を行った(前半)。</p>

意見

○金子部会長 ただいま5ページまでご説明をいただきましたが、今までの概要や流れ、それから表彰、顕彰事業の推移・変化、スケジュール等は大体これで理解できたと思います。一番大事なのは、5ページのそれぞれの部会の中で出された意見だと思います。共通している問題は、どうしても認知度を高めるための方策はないかということにかかっている気がします。

今までの説明の中で質問や意見がありましたら、お願いします。

○鈴木委員 第5回の実績の応募状況で、地域まちづくり部門 42 通、まちなみ景観部門 89 通となっています。応募用紙はどのくらい外に出回っているのですか。

○水口係長 全部で1万 5000 部刷りまして、市内の施設、駅などを含めて約 270 カ所に配布しております。

○鈴木委員 それだけこういう立派なものをつくって、いろいろなところに置いているのだったら、やはりもう少し応募をいただくような形にしないと。1万 5000 の中で両方合わせても応募が 150 くらいとなると、やはり少し寂しいと思います。両方の部会で認知度を高めるということが出ていますが、その辺りをもう少し強化したほうがいいと思います。今、意見も言ってもよろしいですか。

○金子部会長 お願いします。

○鈴木委員 きょうも委員の方で大学の先生方がいらっしゃいますが、例えば建築や土木関係の大学や専門学校や高校などに置いてもらって、少しでもそういうものに興味がある人から参加を促すと。一般市民の方に知れ渡っていくには、一般市民の方への啓蒙活動として行っていくのが最終的には重要だとは思いますが、ただ、まずはとにかく関心の強いところから認知度を高める活動をするために、神奈川大学や関東学院とか横浜国大とかいろいろありますので、ご協力いただくような形をとれないかということがあります。

それと東日本大震災後、例えば町内会などで結びつきを高めていこうという動きが前よりもあるので、町内会などでも結構こういうことに関心が高いです。今、区役所ごとにそれぞれの町内会が連合的に幾つも組織づくりをしていて、ネットワークを構成しているようです。そういうところにもご協力いただくことができないかと思います。ただ一般に駅や何かに置くのも、それはそれでいいのですが、それだけではなくて、もう少し個別に戦略的に攻めていったほうがいいと思います。

○金子部会長 ありがとうございます。今のご意見は都市美の表彰広報部会の中でも大分論議がされました。いかに認知度を高めるかというのは、大学や専門家にまず広めて、それから市民への認知度をもっと高めるといったことが一つの手段ではないかという意見が出たと思います。

○山家委員 そうですね。今おっしゃったとおりだと思いますので、少しでも認知度を高めるようなご協力ができればと思います。

○関委員 賛成です。そのとおりです。

○金子部会長 認知度を高めるというのはなかなか難しいことがあります。1万 5000 部のパンフレットを 270 カ所くらい配って、更にウェブ上でも PR していますよね。広報の仕方はいろいろあると思いますが、どれが一番効果的かというのはなかなか難しいです。

○山路部会長 今のお話で、町内会とか何とかといったときに、やはりまだびんときていないというところがあるのでしょうか。人・まち・デザイン賞といったときの、そのデザインの意味が何か専門的な響きがあります。また、自分たちの町内会の活動とか身近な活動が、例えば我々のまちづくり部門に該当するということまで理解するには、やはりもう少し何らかの説明が要るのかもしれない。ただ、実際にそれは言うがやすしで、そういう時間をどうとって丹念にやっつけていけるかということ、なかなか難しいというところです。

○金子部会長 そうですね。

○山路部会長 それは実際感じますよね。それで何か専門家とか限定された人たちの中でなされている感じが少しあるような気がします。

○金子部会長 ネーミングと歴史を考えると、やはりこれはどちらかといえば専門的な分野を切り口として入ってきているような気がします。実は「楽しいまち賞」とか、そういうごく簡単な

	<p>話にしていくと、もう少し違ったフェーズがあったのかもしれないと今ふと思いました。かなり専門的な表現になってしまっているのかもしれない。いわゆる一般市民に受け入れられやすいような仕組みを何かもって考えていくということが、もしかしたら必要なのかもしれません。</p>
○佐谷委員	<p>私のイメージでは、まちなみ景観賞は物なので、どちらかという一般市民の方が応募しやすいように、やり方さえ工夫すれば多分できるかと思います。地域まちづくり部門のほうは活動なので、一般市民の方に他薦で応募してもらうというのがなかなか難しいところがあるように思います。一方、自薦のところは、先ほど山路さんがおっしゃったように、自分たちの活動に応募することができるのだと思ってもらうようにすれば増えてくるかと思います。そこはやり方を部門ごとに変えるのもあるように思います。</p>
○山路部会長	<p>少しずつ系統の変わったものが増えているような気がします。</p>
○金子部会長	<p>ありますよね。</p>
○山路部会長	<p>まちなみ景観部門でも、例えば荒井沢市民の森が入るということは単純に物というよりもトータルにそこにある環境なりをとらえているような気がします。地域まちづくり部門は、余り特殊ではなくて普通の町内会や商店街がしているような活動も、大分増えてきているような気がします。先ほど鈴木委員がおっしゃったのは、その底辺の拡大の部分ですよ。その辺のところはまた別に考えなければいけないと思います。</p>
○関委員	<p>先ほど鈴木委員から大学ということがありました。大学の中で学生は、教員も絡んでいますが、いろいろと、特に地域まちづくりのほうにかかわるような活動はちらちらと、私などもささやかですが行っています。ただし学生主体だと、その継続性みたいなものが4～5年蓄積があってということで、なかなかハードルが高いのかもしれないと思います。</p> <p>そういうところから、専門家と一般の間にいる学生たちが自主的に、あるいはゼミなどで行っているものを広げれば、自薦であれば応募の対象として少しプッシュすると浮かび上がってくるという可能性は感じています。これは次回行って、パンフレットなりリーフレットなり、フライヤーでいいと思います。ウェブで登録できれば、学生たちはそういうのは簡単にさくさくやってしまうと思います。ですので、応募数と認知を増やす上では、そういうところに少し集中するというのはいいと思いました。</p>
○金子部会長	<p>近年、大学が町に出てというような活動は非常に多いですよ。ほとんどの大学がそういうことをしているので、そこでまたある種のPRを重ねていく、ムーブメントを高めていって認知されるのはいい感じはします。</p>
○関根委員	<p>今の意見について話を聞いて私も本当に賛成です。大学の方にまず広げるとするのは、今の若い世代の方にもこういうことにどんどん興味を持ってもらって。こういうものがあるという認識を持つ人がどんどんふえていく活動になると思います。本当にもう今回からできたらいいのではないかと思います。</p> <p>また、先ほど各部会からの意見の中で表彰された物件を回るツアーについて調整中とのことでしたが、こういうのがあるのだと皆に知ってもらうツアーなども、本当に多くの人に知ってもらうために必要かと思います。</p> <p>まちづくり部門としては、やはり活動というところで内部についてかなりわかる方ではないと他薦や自薦はできないと思うので、学生には少し難しいかと思います。そういうところは、区役所などと連携して、その地域のより深いところの施設などで呼びかけをするなどして、まずは認知度をあげていくことが重要かと思います。</p>
○竹谷委員	<p>もう少し進めて、この1万5000部配られるようにしているのを何部かは学校のほうにも渡して、学校のほうで応募するのではなくて、この中には、学生が見てここはいいのではないかという投票権と資料請求権のようなものをつけておく。これを見て、自分のところがデザインで応募しなかったら用がないのですが、それ以外にもこのリーフレットを使えるようにして、特に学生が横浜市内のいいところを投票すると新しい目で何か出てくるのではないかという気もします。</p>
○金子部会長	<p>自薦・他薦を問わないということは、投票というのは何かもう一つ別のフェーズになるのですか。</p>

- 竹谷委員 ええ。このパンフレットをもらったら投票できるというような。
- 金子部会長 投票ですね。なるほど。これは賞のあり方の根幹にかかわるお話かもしれませんが。
- 竹谷委員 はい。
- 山路部会長 でも、これもはがきを切り取れば応募できるわけですよね。
- 金子部会長 それが投票かもしれませんね。
- 竹谷委員 ええ。
- 山路部会長 むしろピンポイントに大学の建築や土木や都市デザインなどを行っている、それぞれの先生方のところに直接渡して、授業で5月くらいに配ってもらったほうがよいのではないですか。何となく学校に置いておいてもだれも見ませんから、そういう先生を10人くらい思い浮かべるではないですか。その先生がそれぞれ授業の課題として学生に1人1つつけて応募してみろというくらいのことをする。私は東京都市大学で3年生の授業を1つ持っていますが、自分の学生のことを考えると、こういう知識を持っているかという、多分イメージがないです。
- もう少し深く勉強していたり、横浜のまちづくりのことを知っていたりする学生のレベルと、一般の大学2～3年生くらいとは大分違います。でも、そういうことに興味を持ってもらうために、そこまで入り込んで半強制的に、横浜の大学は横浜のデザインをきちんと勉強させようというキャンペーンと合わせてしまったほうが、相手が見えるのではないですか。
- 鈴木委員 負担が多くなるかもしれませんが。
- 金子部会長 まちなみ景観賞はそういうことが可能ですよね。
- 山路部会長 ええ。活動のほうはちょっと難しいですね。
- 金子部会長 アクティビティのほうは、なかなか難しいような気がします。
- 山家委員 そうですね。建築学会の中でも、例えばうちの研究室やまちづくりと都市計画系の研究室だとダイレクトにかかわっています。けれども、例えばうちの大学の場合だと、むしろ自治行政学科あたりのほうが逆にこういった関わりを持っていたりもします。あと思い浮かべてみますと、学長室を通して政策提言の募集があります。そうすると、ゼミの活動で地域に入り込んだり、小学校と連携したりという応募があります。ですので、うまくチャンネルを使うと、それなりに認知度を高めるようなことはできるのかもしれませんが。
- 山路部会長 そういえば自分の学校でも、参加型のまちづくりを一生懸命やっている研究室などもあります。
- 金子部会長 多いですね。
- 山路部会長 それは環境情報学部なので、もう少し違う角度からやっていたりします。そういうところも触手を広げれば。
- 関委員 そうですね。
- 金子部会長 これは、今いろいろないいご意見が出ていると思いますが、ぜひ事務局として各大学、特に大学コンソーシアムの大学にはこれを告知して、きちんとフォローしてもらう。それでお願いして、どのくらい応募するかとか、その辺までしていただくと多分いいです。結構大変でしょうが。
- 山家委員 どれくらいの応募があったのかと、結構プレッシャーのような感じですね。
- 山路部会長 でもやはりロコミに近いピンポイントなやり方のほうがいいですね。
- 関委員 これは今までそれをされていなかったというのを初めて知ったのですが、それを新たにやっていくということでしょうか。
- 金子部会長 少しはやっているのでしょうかね。
- 関委員 やっているのでしょうかね。これは大学で何か見た記憶はあります。
- 金子部会長 ありますよね。
- 関委員 でもやはり私は持っていったおしまいだったりして。
- 山路部会長 言われてどこかに置いておくと、結局はだれも持っていないのではないですか。
- 関委員 ええ、そうなのですよね。ほかのパンフレットもそうです。だから今までやっていなければぜひ。

○山路部会長 先生がそこで、こういうものなのだと説明してくれるような授業を一コマの半分くらい使ってやっていただけるといいですね。

○金子部会長 ええ、いいですね。

○関委員 それで、今、山家委員がおっしゃったように、建築学科と土木、そのハード系だけではなくて、例えば関東学院大学の人間環境学部などはそういう活動のほうで、もう既にいろいろ行っているのがあります。自薦で来るかもしれないし、そういうことに関心を持つということだったら、かなり広まると思います。今までしていなかったのでしたら、それはいいと思います。

○金子部会長 リーフレットを1万5000通つくって、ウェブ上でも公表しながら、今度、第6回目になりますから、随分ふえましたねというくらいの認知になります。それが今、財政難の折ですから、余り応募が少ないと意味がないのではないかということにもなりかねません。横浜市がかなりきちんと実施してきた事業なので、この顕彰制度を続けていくためにも、各委員もいろいろPRができると思います。ぜひ事務局も、特に今ターゲットに上がった大学へのPRをしていただいたほうが良いような気がします。

○山路部会長 金子先生のところの設計事務所協会はどうですか。

○金子部会長 それも1つよく話に出ています。ただ、我々のほうのお願いとしては、そのインセンティブ、賞をもらうとどう仕事に関わるかというような問題があります。設計のコンペなど、プロポーザルに入賞するための方法の一つになると、それはインセンティブになってもいいのではないかという話をよく出しています。ただやはり認知されないとインセンティブにはならないですね。

例えば建築学会賞を取れば、あれはいいと言われます。でも人・まち・デザイン賞は聞いたことありませんということになると、なかなか難しいです。ただ、例えば横浜であれば、同じ市の定めた表彰制度の中でこれが認められるという、割合簡単なことではないかという気がします。市長表彰とか建築局長表彰などがありまして、その中の一つに入れるのはできるような気がしますから、これはぜひデザイン室で頑張りたいと思います。

○塚田課長 後ろにチラシ等を配布する先の資料もつけております。これまでもいろいろ努力はしてきたのですが、今後とも委員の方々のご協力を得ながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○金子部会長 今、5ページまでのご説明と、委員の皆さんのご意見を伺いました。何とか認知度を高めていこうというようなことで、幾つかのアイデアをいただいたと思います。

それでは引き続き以降の説明をお願いします。

後半部分について、事務局から説明を行った。

○金子部会長 これで大体すべての資料のご説明をいただきましたが、質問や何かございますか。

○鈴木委員 この応募の期間が2カ月とありますよね。その間、例えばウェブ上では、その中間の報告や経過を見られるようなことをしたら結構おもしろいのではないかと。ちょっと手間がかかるけれども、例えば今、何通応募がありましたとか、自分が応募するとそれが1件増えるとかです。少し遊びみたいな感じですが、そういうウェブならではのおもしろさみたいなことは、特に若い人が好きです。手間がかかりますが、そのようなこともあるといいです。

途中の経過で、応募の内容なども公表していいのだったら、例えばこういうものが出ていますとか。そうすると、「ああ、こういうのを皆応募しているのだったら、じゃあ自分はここがいいと思うからこれを応募しようかな」とか、割と簡単に考えられます。そんなに難しく考えないで、気軽に参加できるような参加型の楽しさや工夫みたいなものがあつたほうがいいです。

ウェブを使うのだったら、特に若い方たちにはゲーム性みたいなこと、こういう印刷したものはまた別の活用の仕方をしたほうがいいのではないかと、少し思いました。

○金子部会長	事務局としてはその辺はいかがですか。ウェブでいろいろやるとなると、様々なことを決めておかないと大変なことになる可能性もあるのですが。
○塚田課長	今回の案件ではないですが土地の売却などの応募のときは、中間時点、締め切った時点で応募件数くらいを載せる場合があります。ただ、正式にチェックをした中で対象から外れる場合があるので、そういうときにどうするかということがあります。載せること自体は可能だと思います。内容については検討します。
○鈴木委員	手間がかかってしまうので、ちょっと大変かもしれませんが。
○塚田課長	検討できると思います。
○水口係長	ウェブでの投票については、市の全体のシステムを一部利用して、投票システムに直しています。その全体のシステムがリアルタイムに反映されるものではないので少し難しいかもしれません。
○金子部会長	事務局による事前審査などがありますので、出たもの全部が反映されることはないと思います。ただ、例えば1カ月くらい経過して応募が何件くらいありますというくらいはあってもいいのかもしれません。それはご検討いただくという。
○恵美須課長	件数だったら出しやすいと思います。内容は審査しなければいけないので個別のものについては出しにくいですが、集計状況が今何件くらいとかであれば出せるかもしれません。
○金子部会長	もう一方で、ウェブ上ですということに対する有利性といえますか、お手軽に応募できますというようなイメージで、わっと集まったら大変だという意見が表彰広報部会でありましたが、実はそれほどでもないのですよね。これは余り関心がないからそうなのかとも思います。はがきを出すよりもウェブ上でやったほうが若い人にとっては楽だろうと思いますが、それでも大した数ではないです。話がもとに戻りますが、やはり、そこをいかに認知されて皆が興味を持つようにするかということなのだろうと思います。
○関委員	今のウェブの話ですけれども、これは実際に検索をかけた後に出てくる画面というのはどういうものですか。
○鈴木委員	今日少し見てきました。この募集リーフレットの「応募方法」の通りに検索すると、まず画面にこのデザイン賞の概要などの説明が出てきて、投票のところは、そこでまたクリックするのです。そうすると推薦理由なども書かなければいけないし、きちんと文章を考えてやらないといけないようにはしてあると思います。 ただ、このパンフレットを見た方は、頭の中にいつも「人・まち・デザイン」というのがあるわけではないから、なかなかすぐには出てこないかもしれません。こういうのを見て、ではこれで検索してみようかという形になるかもしれませんよね。
○関委員	そこへたどり着く。わかりました。
○金子部会長	先ほどのご説明の中で、このチラシのほうは今どういうところで配ろうというイメージですか。
○保坂係長	それは大学のゼミなどに配ろうと考えています。
○金子部会長	例えばそれは具体的に市内の大学のどなたあてとか、どの課あてに出すかとか、かなりきちんとやらないと、大学に出しても事務局に行ったらそのまま埋まってしまいますよね。
○保坂係長	そういう意味では先生方ともご相談させていただいて。
○金子部会長	そうですね。
○塚田課長	正式になるとやはり大学の総務課を通さなければとかそういう話になって、文書なども必要になってくると思います。ただ、やったとしても本当に活用していただかないののですが、やはり行き渡らない場合があると少し問題なので、個別にご相談させていただいて、うまい方法で進めていきたいと思います。
○金子部会長	きっとそのくらいやらないといけないでしょうね。例えばこのリーフレット裏表2枚で掲示の許可をとって、建築学科や人間環境学科などに貼るくらいまでいかないと、なかなかわからないのではないのでしょうか。
○関委員	多分、学科レベルくらいでしょうか。

- 保坂係長 ゼミに行って直接配るとか、そういうものは可能でしょうか。
- 関委員 ええ、研究室に来て10部くらいあって、それで足りなくなればコピーして、あとは課題などでシミュレーションしてもらおう。
- 山路部会長 そうなのです。もう課題を出してしまうくらいのほうがいい。
- 関委員 はい。課題を出して、町を歩くのだったら見てきて。
- 山路部会長 かえって事務部門に行ってしまうと面倒な割に効果的でないような気がします。
- 関委員 そうです。霧散霧消してしまう。
- 山路部会長 どこかアリバイ的に置いてあったり、貼ってあったりするけど、学生はだれも見ないみたいなケースがあります。
- 恵美須課長 これはと思うような先生に直接ダイレクトメールを送ってという話がいいですよ。
- 関委員 まず、それが一番。
- 山家委員 あとは学長室にもあわせて正式に送って、こういう趣旨なので関連のゼミに送ってほしいとしておくとスムーズかもしれません。
- 塚田課長 そうですね。
- 山路部会長 応募をふやすだけではなくて、例えばこれ自体の趣旨からすれば、やはり横浜で学んだ学生は、横浜のこういうまちづくり活動とか、こういう景観に興味を持ってもらいたいという方が主ですよ。
- 金子部会長 そうですね。
- 山路部会長 そのための手段として、こういうものをできるだけ多くの大学が活用していきましょうというような認知を、先ほどの大学コンソーシアムなどを通じて、きちんと実施して行って、関係する先生方が主体性を持ってこういうものを使っていくという、そこまでいかないと。だから、そういう先生が1人でも2人でも出てくれば自然に応募数も増えるし、学生自身もそれが勉強だと思って応募するかもしれません。そうではないと本末転倒の、ただ数がふえればいいということになってしまうのも少し違うような気がします。
- 金子部会長 それはもちろんそうですね。この賞の趣旨というか、横浜のいろいろな意味でのデザインのレベルアップとか、それを知ってもらおうというようなことが一番大事かと思います。そういうコンセプトが明確になる告知をするということなのですよ。
- 塚田課長 いろいろご相談させていただきまして、具体的に動いていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。今回は簡単な形でチラシ等もつくっていきまして、市役所の内部でもすぐコピーできるような形式にします。なるべく臨機応変に対応できるようにしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。
- 金子部会長 今の部分につきましてはこれも非常にいいご意見が出たと思っております。特に大学との関係については、より重要であると思っておりますので、よろしくお願ひします。
- 佐谷委員 今ウェブを見ました。ウェブ上では、過去の受賞作品がこの人・まち・デザイン賞になってからのものしか書かれていないようです。
- 金子部会長 そうです。
- 佐谷委員 ですので、そうすると応募する人が過去のまちなみ景観賞やまちづくり功労賞に入っているかどうかをどこで調べたらいいのかわからなかったのですが、どこかにあるのでしょうか。
- 保坂係長 すみません。今、現在リンクが切れています。こちらでも最近わかりましたので、また復活させてわかるようにしておきたいと考えています。
- 佐谷委員 そうしないと、過去に何が受賞されていたかがわかりづらいと思っておりますのでお願ひします。
- 金子部会長 そうですね。今いいご指摘をいただきました。これはぜひ確認をしてウェブ上でも過去の受賞作品が見られるようにということですね。
- 佐谷委員 はい。そうですね。
- 金子部会長 よろしくお願ひします。それでは、議事の2はそれくらいにしたいと思っております。

- 金子部会長 それでは、その他に入ります。その他で何か事務局からありますか。
- 塚田課長 特にはございません。
- 山路部会長 スケジュールを見ると、まちなみ景観部門のほうが1～2カ月先行しているいろいろなことが進むということで、我がほうからぜひお願いなのですが、まちなみ景観部門でいろいろ議論があったこと、あるいは選考の経過等に関して、ぜひ地域まちづくり部門のほうに情報提供をお願いしたいということです。
- 金子部会長 はい。
- 山路部会長 合同部会がたびたびあって、そこで意見交換して価値観を共有するというのは多分なかなか難しいです。ですので、スケジュール的にはそちらで議論されたことをこちらで受けて行こうという形がいいかもしれないと思いました。なぜかというと、まず1つ目には特に両部門で表彰できるというふうに変わったということで、なぜそれが向こうで表彰されているかという表彰の経緯を知っていたほうが、仮にダブル受賞というケースがあったときに我々として答えやすいだろうということです。
- それからもう1つは、前回の部会の中で、維持管理なども含めて審査していかれるほうが良いというようなご意見があったと思います。維持管理というと、結構活動そのものに対する評価が含まれてきますよね。そうすると、かなり地域まちづくり部門と重なる視点が出てくるということです。仮にそういう審査があったときにはぜひ、活動のこういうところは評価したということを議事録などでこちらに教えていただけると我々としてもありがたいです。
- 塚田課長 もちろん事務局としては連携をもって進めさせていただきます。ただし、今ご指摘いただきましたスケジュールについては、もう少し調整させていただいた中で逐次進めていきたいと思います。まちなみ景観部門のほうは、今回から部会で決定ということになりますので、3月の都市美対策審議会の親会で確認していただきながらスケジュールについても進めさせていただきたいと思っております。その辺りは少し表現が抜けていたかと思しますので補足させていただきます。
- 金子部会長 先ほど説明があったように、表彰広報部会で選考してから親会に諮って決めるというのが今まででした。それを、表彰広報部会が責任をもって賞を決める、それを親会に報告する、最終的に市長が賞にするという形になりました。ですので、少し今までとは我々の持つ責任が重くなったというつもりでいます。
- それから、これはアクティビティと景観とを同時に受賞ということが当然ありますよね。去年はどうでしたか。
- 水口係長 結果としてはありませんでした。ただ、両部門それぞれで検討しておりますので、そういう可能性ももちろんあるということです。
- 金子部会長 ですから今、山路さんがおっしゃったように、当然そのすり合わせのようなことがなければいけない。
- 水口係長 情報提供はその都度させていただく形で進めていきます。
- 金子部会長 そうですね。
- 山路部会長 ただ、2カ月くらいずれてしまうので、こちらのときにはまだそこまで議論が進んでいない可能性があります。ですから、こちらがダブル受賞するかどうかを決めるみたいなことになってくると思います。
- 金子部会長 そうですね。情報はきちんと共有できるようにするということですよね。
- 塚田課長 はい。そういうケースになりつつあるならば、また事前にご相談させていただきたいと思います。
- 金子部会長 恐らくダブル受賞になると思われる案件はかなり早い段階で見えてきますので、はっきりできると思います。ただ、今おっしゃったのはそれだけのことでなくて、全体の流れみたいなものもご連絡するということですよね。
- 山路部会長 そうですね。今まででは日本大通りの「みんなに愛されるストリート」というのと「日本大通りとオープンカフェ」というのが、実は同じ空間に関して2つあったということでしょうか。



- 恵美須課長 そうですね。
- 金子部会長 我々が景観の中で少し悩んでいるのは、余りにも有名なものはここで今さら改めてやらなくてはいいのではないかというような論議があります。本来ならばとうの昔に賞になっていいのではないのかと思うものも、それはどういふふうに扱うのだろうか、この辺は少し各委員それぞれで悩みがあります。一方で、後ろから少しサポートして押してあげることによって活動がよくなっていくような気がします。やはり、この賞全体の大きな流れみたいなものを時々論議しておかないといけないかと思ひます。もちろんそれは審査委員それぞれ個人の判断で決めることだと思ひています。
- 山路部会長 まちづくりというのは、その活動だけをストレートに表現すればいいので、まだいいような気がします。けれども景観というと、その時代ごとに総合評価される価値観が変わってくるでしょうから、大変だろうと思ひています。10年前に評価された景観がこれからの時代に評価されるかということ。
- 金子部会長 また違いますよね。
- 山路部会長 それは変わってしまったいいのでしょうか。
- 金子部会長 時代をあらわしていると。
- 山路部会長 そういう意味では、やはり時代をあらわすというような感じはしますよね。
- 金子部会長 第4回に荒井沢市民の森というのがあります。このときは自然系が何件か出まして、ある意味ではそれらの代表の様な形でここが取り上げられています。実はその後、ここを守る会が非常によくやっておられるということがわかってきました。こういった緑に関する環境などにつながってくる案件が今後増えてくるだろうという思ひがありました。
- 山路部会長 まちなみ景観部門は建てられて10年以内のものと、逆に一番古いものを規定していますよね。そうすると、少し長いこと活動があつて、ずっと維持されてきた景観みたいなものが選ばれにくくなりますよね。長きにわたつて地域の人たちが愛してきた景観というのは、多分5年や10年以内くらいの話ではないスパンがあるのですが、そういうものは選択から漏れますよね。それは活動という形で、こちらがすぐえばいいのだということですが、景観としてそういうものがどこかに行つてしまうということに関して。
- 金子部会長 それは確かにありますね。
- 山路部会長 要綱にも関係あるかもしれないので、言うべきかどうか悩みながら発言しているところもありますが、景観の継続性みたいな話があつて、新しい景観をつくり出したというだけでなくそういうものに関してどう入れ込んでいくのかというのは、少し考えます。
- 金子部会長 そういう例があるかわかりませんが、例えば増築を重ねながら町並みが非常によくなつてきたとか、そのようなものがあつてもいいですよ。
- 山路部会長 日本建築家協会の25年賞がありますよね。そういった25年間にわたつて地域の人に愛され続けて、今も変わらずメンテナンスされて使われ続けているような建築みたいなものを表彰するようなことは、この人・まち・デザイン賞ではなかなかやりづらいです。そういう価値観というのは、活動で頑張つてすくうのでしょうか。そういうことを少し思ひました。
- 金子部会長 はい。とてもそうですね。
- 竹谷委員 その逆のこともあるような気がします。間もなく私たちの地域で、廃校跡にスポーツ公園をつくるのですが、そういう新しい公園をつくつて景観をよくしていくためには、できたらすぐ審査するほうが少しデザインに気を使うというか。こういうものは住民の意見を入れて幕の内弁当みたいに大体つくつてしまひます。けれども、やはりあるポリシーがあつて、そうは言うけれども公園はこうでなくてはいいけないというようなことを行つたかどうかという審査があつてもいいような気がします。公園などを新しくつくるときに、そういう意味では行政がやる仕事が多いです。
- その次に欲しいのは道路だと思ひます。今困つているのは、道路の歩道を車いすで通ると、車庫のところは車が入るために道路がへこんでいて、車いすが場合によっては道路のほうに行つてしまひそうになります。だから、歩道を真つすぐにしてほしいという意見もあります。そういう道路ができたときに非常にいい道路といひますかね。ということで、

	この賞の対象外ですけれども、そうすると横浜の町が早くきれいになる気がします。
○金子部会長	この応募要件の中にある10年以内に新しくつくられたものか、歴史的建造物とまたそれを再生したものというのは、ある種の、今を切り取っていくという見方からはまあいいのではないかという気もいたします。ただ、20年賞とか25年賞とか、これからは何かそういうことを論議する時代があるかもしれないです。もっとオーバーに言えば、これはモダニズムの建築はどうするのかという問題とイコールだろうと思います。
○山路部会長	今、建築が短命化してしまっていて、50年以上もつものがほとんどなくなってくるみたいなきに、せめて20~30年は使われ続けていただきたいですねみたいなのからできたのですよね。 あと、今見てみると、これはまちなみ景観といっても町並みとして評価されているものは余りないですね。単品が主で連続感を持ってというものは余りないですね。日本大通りといっても、これは通りそのものが評価されているので、その日本大通りの町並み全体という話とも違うのでしょうか。そういうものが出てこない。
○金子部会長	ただ、そのバックボーンには、必然的にそのエリアなどが含まれていて、個の建物だけが評価されているわけではないと思っています。極めてアクティビティーと近いところにあるものが実はたくさんあるのだろうと思っています。
○山路部会長	やはりまちなみ景観賞という建築群みたいなのが出てきてもいいのかもしれないとか。まあ難しいでしょうけど。伝建地区があるわけではないですからね。
○関委員	そうです。
○山路部会長	でもそろそろ旧東海道の宿場を生かしたまちづくりみたいなのも何か少し姿を見せてきていると。
○金子部会長	そうですね。それは、まちなみ景観プラス、アクティビティーも一緒になるのですかね。
○山路部会長	何か出てくるのですかね。欲張ってはいけませんね。
○佐谷委員	建築協定とか地区計画でできた町並みというのが、多分その10年になかなか合わないのではないですかね。あと、横浜は少数が多過ぎるというか、建築協定のいい地区とかが結構あるのですが、それは活動でもないし、町並みだと10年にややそぐわないという感じなのですかね。
○山路部会長	そうですね。竹谷さんのところの地区計画だって、それで表彰されてもいいわけですしね。そういうのをまちなみ景観という形で、余り皆さんが着目していないということかもしれません。10年に合わないのですかね。
○金子部会長	10年たつと協定は見直しですか。
○竹谷委員	そうですね。地区計画は無限ですよ。
○金子部会長	そうですね。
○佐谷委員	分譲されてからはもうかなり経ちますよね。
○竹谷委員	もう30年たちました。
○山路部会長	そういう意味では先ほどの10年スパンから先に行ってしまうです。
○金子部会長	そうですか。この話題は初めてですね。
○山路部会長	今、横浜市でも地域緑のまちづくり事業というのを始めていますよね。あれは緑化によって町並みをつくらうとするわけです。だから、建築的にはほとんど何も変わらないけれども、外構緑化が町並みをつくっていくというようなことです。でも、それをこういうまちなみ景観部門で応募できるのだろうかとか、それはどういうスパンの、どういうまちづくりなのかということを見ると、かなり議論が必要なのかもしれません。それをどう評価するかということに関しては、なかなか町並みも幅広いと思っています。建築協定は横浜市が日本で一番数が多いですよ。
○佐谷委員	横浜だと建築協定で例えば70坪くらいの宅地が並んでいる景観がある種、普通なのですが、日本全国から見ると非常にすぐれた住宅景観がたくさんある地区・市ということなのです。だから本当はそういうのを表彰できると、もっと市民としても気づいてもらえると思います。いずれもやはり10年ということにはならない、もっと前ですよ。
○山路部会長	それも活動も合わせて評価したいところですよ。

○佐谷委員	例えば竹谷さんのところみたいに、建築協定から地区計画に切りかわるときに活動として応募してくれると、そういうのを表彰できる可能性はあると思います。
○山路部会長	あるいは、上乘せして独自のデザインガイドラインを持っているとかですね。青葉区的美しが丘のように、自分たちでそういう独自のルールを決めながらやっているような。美しが丘のところは、多分そういう形で頑張っていっているけど。
○金子部会長	それは分譲した土地ですか。
○山路部会長	東急が田園都市として分譲しています。クルドサックで、中は割とおもしろい外構計画なのですが、それ以上に、もちろん建築協定がかかってさらにデザインガイドなどを決めてというような形で守られている町並みです。でも、そういうのはやはり、それが結構長い年月をかけて維持されてきていることが非常に尊いでしょうと思います。
○佐谷委員	はい、そうですね。
○山家委員	ここに選ばれているのを見ると、やはり10年以内というのがありますので、今後、良好なまちなみ景観に寄与しそうな建築物というイメージだということがあります。実際に町並みとして形成していくとなると、私が横浜の中であの辺がエリアとして特徴的だと思いつくところにしても、多分この対象にはなっていないだろうという場所が結構あると思います。
	例えば神奈川区だと神奈川区100選みたいに区内の特徴的な場所が選ばれていたりしますが、横浜にもそういう何か100選みたいところはありますか。
○恵美須課長	土木などにはあります。
○山路部会長	でも区レベルでやっていることが多いのではないですか。
○恵美須課長	そうですね。
○山家委員	特徴的な町並みなどが形成されている場所というのは、むしろそういうもので拾われているのかもしれませんが、10年となると今後寄与しようというようなことなのかもしれないと思いついていました。
○金子部会長	確かにここの表現ですと、今言ったようなその歴史の重みではないですが、次に向かっていくあたりの評価がなかなか難しい話になってきます。何か特別賞みたいなものや何かのイベントでもあれば、例えば横浜で世界住宅年などを行う時にあわせて評価するということもあるかもしれないと今思っています。
○山路部会長	審査員特別賞を出してしまったらどうですか。
○金子部会長	そういうのがあってもいいかもしれませんね。
○山路部会長	何でこういうのが出ないのかみたいな感じで、審査委員会側から問題提起してしまうとかですね。
○金子部会長	それでは当然もうその住んでいる方と全体が一緒になりますよね。だから、アクティビティーとプラスその景観、すぐれた住環境とか、そういうものになります。
○山路部会長	山家先生は例えば横浜のどこを思いついたのですか。
○山家委員	やはり弘明寺の商店街や、佐谷委員がおっしゃっていた住宅地計画ですかね。あと商店街は幾つかいいと思うものはありますが。浜マーケットなどとか。
○関委員	六角橋とか横浜橋もそうですね。
○恵美須課長	弘明寺は第2回の活動のほうで受賞しています。
○山路部会長	ああ、本当ですね。これは横浜弘明寺商店街のまちづくり活動と。 だから、やはり町並みとしては余り評価されているわけではないですね。
○金子部会長	町並みではないでしょうね。
○山路部会長	でも、あそこも橋の上にもアーケードがかかっている、割とおもしろいアーケード型の商店街だと思います。
○金子部会長	そうですね。あとは少しやはり横浜市の中心にやや偏り過ぎるかという話で時々論議があるのですが、これはやむを得ないかというようなことです。
○関委員	改めて見ていると、やはりこの去年の元町ペットパークとか、そのもう少し前の馬車道のガス灯とかは微妙です。馬車道ではなくてそのガス灯というオブジェクトとか、パークというその物であって、元町のあの通りの町並み全体ではないというところが微妙ですね。

	<p><b>○金子部会長</b> このペットバーもいろいろ論議があったのですが、あれをしてみると、普段は気がつかないけれども、その町並みの中である種主張している。日曜日の午前中にあそこを通ると、お店の人が本当に一生懸命水を取りかえています。これは元町らしさなのではないかという感じがいたします。それでは総括をお願いします。</p> <p><b>○塚田課長</b> 1点目については、今回、合同部会の座長を金子部会長にお願いしました。</p> <p>2点目ですが、スケジュールや部門の連携については事務局のほうでうまく進めていきたいと思います。また、主な意見について、大きくは認知度を高める中で多様な取り組みを進めてほしいということで、これは事務局で鋭意努力して進めていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。また、選考方法については、一部変更点も含めてご確認していただきました。</p> <p>また、パンフレット、チラシ、広報についても、過去の受賞データを含めたウェブの表現や実際の大学各団体への活用について、もう少し進めてほしいというご意見等をいただきました。また、審査の視点について時代性や継続性、そして対象要件としての年月等を含めた件については大きな課題点なので、次回に向けて今後、検討を進めていくということになります。</p> <p>・議事録の確認</p> <p><b>○塚田課長</b> 本日の議事録については、横浜市の保有する情報の公開に関する条例に基づき、審議会の議事録についてあらかじめ指定した者の確認を得た上で、それを閲覧に供するということになっておりますので、本日の議事録については金子部会長の確認を得た中で進めさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>閉 会</p> <p><b>○金子部会長</b> それでは、以上で本日の議事を終了させていただきます。どうも長時間にわたってよいご意見をいただきまして、ありがとうございました。</p>
資 料	第6回横浜・人・まち・デザイン賞について
特記事項	・本日の議事録については、部会長が確認する。